

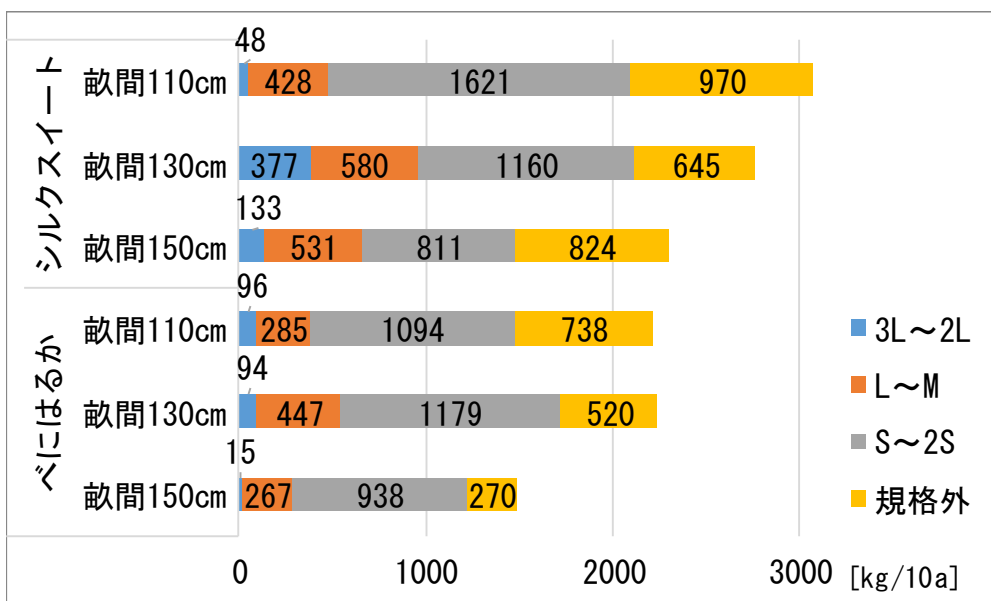
背景・目的

市内で作付けが増えているサツマイモは、栽植密度によって収量や芋の大きさが異なることから、代表的な2品種について、畝間と収量等の関係を調査しました。

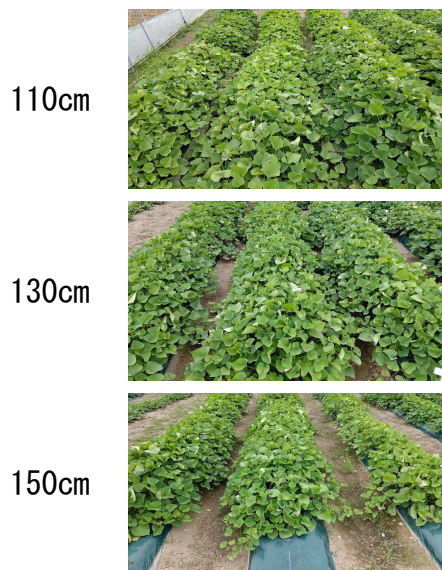
結果

1. 規格内収量は畝間 130cm が最も多い

（床幅 50cm, 株間 40cm, 斜め 4 節植え。5 月 31 日定植, 10 月 3 日収穫）



畝間 8/8 撮影



※3L : 1,000g 未満 700g 以上 2L : 700g 未満 500g 以上 L : 500g 未満 350g 以上
M : 350g 未満 200g 以上 S : 200g 未満 100g 以上 2S : 100g 未満 50g 以上

2. 1 株当たり収量も畝間 130cm が最も多い

畝間（栽植密度）	シルクスweet (kg/株)		べにはるか (kg/株)	
	総収量	規格内収量	総収量	規格内収量
畝間 110cm (227 株/a)	1.35	0.92	0.97	0.65
畝間 130cm (192 株/a)	1.44	1.10	1.16	0.89
畝間 150cm (167 株/a)	1.38	0.88	0.89	0.73

‘シルクスweet’ ‘べにはるか’ 共に、畝間 130cm が多収でした。

結果の活かし方

株間 40cm, 斜め 4 節植えで栽培する場合、畝間 130cm は、
①規格内収量及び 1 株当たり収量が多い、②M 規格以上の芋が多く、規格外が少ない傾向のため、収穫及び選果の労力軽減につながる等の利点があることが分かりました。

